

## 喫煙対策の基礎知識 その4

「タバコ」はカタカナで書きましょう！  
産業医科大学 名誉教授 大和 浩

「以後、予算増える」の語呂合わせで、1543年の鉄砲伝来を覚えた人も多いと思います。写真は2016年の長崎市への出張の折、出島記念館で撮影したものです。

タバコは戦国時代の末期にポルトガル人やスペイン人によって日本に伝えられました。

写真の中の「煙草」は、明治37年の「煙草専売法」で使用されていますが、当て字ですから現在では使用されていません。植物としては「タバコ」、製品になると「たばこ」という使い分けは存在します。しかし、ポルトガル語の”tabaco”に由来した言葉であり（英語ではtobacco）、同時期にもたらされた外来物のカステラやボタンと同じように、多くの科学者はカタカナで表記します。

日本政府は、「たばこ」とひらがな表記を用いているため、「たばこ事業法」や「たばこの規制に関する世界保健機関枠組条約」など法律に関する場合は平仮名で表記されます。

特に、「日本たばこ産業（JT）」に代表されるタバコ産業は、「日本に根付いた文化である」ことを強調する意図があるため、平仮名を用います。本シリーズでは、法律や官公庁の文章を転記するとき以外は、カタカナで「タバコ」と表記します。また、平仮名の「たばこ」を用いると文章の中に紛れて読みにくくなります。皆さんも意識して「タバコ」を使って頂けないでしょうか。

